

第16号

定価1年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行 檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel. 0139(52)0858 FAX (52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

約束はどうなってるんだ!

～賃金等道教育長交渉～

道独自削減1年延長! 査定昇給制度導入

一月二八日(火)、道教組から西野委員長、新保副委員長、榎木書記長、中山書記次長、道高教組からは國田委員長、亀谷書記長、板垣書記次長他、総勢35名で、賃金継続、定員・教育予算教育長交渉を行いました。

冒頭、全道から寄せられた「賃金署名」(ピンクの署名) 3380筆を提出し、道理と教育条理をもって、立川宏教育長に誠意ある回答を求めました。教育長は、「現給保障は来年度継続する」「期末勤勉手当(ボーナス)の削減措置解消する」「削減率圧縮し、道独自削減1年延長する」「勤務実績に基づく昇給制度の運用凍結解除(査定昇給制度を月例給にも導入)」とする最終回答を示しました。(詳細別表)



最終交渉を行う交渉団



回答する立川教育長

課題		道教委(立川教育長)の最終回答	
1 道独自削減	給与の削減措置	管理職 → 大規模校の校長(3種校長) 9 % → 8 % それ以外の校長と教頭 8.4 % → 7.4 % 一般 → 30歳を超える教職員は、4.2 % → 2.9 % 30歳以下の教職員は、4 % → 2 % に緩和	
	期末・勤勉手当	役職加算額(8年以上は5%、24年以上は10%)の4分の1カットは、終了する。	
	管理職手当	一律20%削減のところ、8%(大規模校10%)の削減に緩和する。	
2	査定昇給制度	2015年1月昇給から「査定昇給制度」をスタートさせるが、具体的中身については、今後話し合う。	
3	現給保障の継続	現給保障は、平成26年度も継続する。	

「約束」の定義
交渉の中で、一五年も続く道独自削減に関して、道教委と組合では、2つの約束がありました。それは、「道の独自削減は、来年度(平成26年度)で終わる」「道独自削減をしているとき

は、査定昇給制度は導入しない」というものでした。今回、その二つとも簡単に反古にされました。耳を疑う回答に「約束」という言葉の定義を道教委に問わなければなりません。そして、現場に「コンプライアンス」を求めるならば、自らも律するべきです。

現場からも、「『約束』って何なんでしょう? 私たちは教室で、約束って大切だよ! 人間関係で最も大切にしなければならぬことの一つだよ! と教えています。それは間違っているのでしょうか?」といった趣旨の発言がありました。「マラソンは、長い距離だけでも、42.195 kmというゴールがあるから走れる。でも、ゴールが示されていないならば、1キロでも走れない」という言葉があります。今回のやり方は、ゴールに近づきそうになると、ゴールを延長するやり方です。ランナーにとって、たまったものではありません。しかも、これは今回だけでなく、4回も行われ、「アメとムチ」まで入れていま

「約束」が好循環につながるのか
ただ、道教委の中でも、やはり、「約束を守りたい」と思っている人々が、少なくともいると考えます。その「約



交渉する 榎木書記長

束」を守れないものとして、「道財政の厳しい状況」があります。確かに、道経済が好循環とは言えない状態です。しかし、私たちは、この一五年の独自削減で3800億円も支えてきました。試算ですが、50代の教員は、約500万円も出資した計算になります。道経済が良くなるなら... この独自削減を一五年の間、甘んじて受け入れてきました。それでもなお道経済の好循環にいたらないのは、この給与の独自削減が経済の好循環をもたらしていないと疑わざるを得ません。そして、この「約束」を破らなければならなかった「結果」を残した、一五年もの高橋はるみ道政に厳しい目を向けざるを得ません。

約束を破る深い理由
表向きの理由は、「道財政が厳しい状況」とあります。しかし、今までの道教委の姿勢を見ると、それだけとは思えません。それは、教職員を「従わせる」という企図が見え隠れしているからです。「勤務実態調査」の強行・理不尽な処分・措置、不適切とは断じられない「不適切勤務」の公表、現場の実態を考慮しない「学テ向上路線」に偏った教育政策の貫徹、指導監・主管・主事による国歌(君が代)斉唱の授業チェック、そして、今回の査定昇給制度の導入などの政策が雄弁に語っています。

裏面に続く

あきらめなければ負けていない

今回、このような交渉結果になりましたが、私たちは負けたとは思っていません。負けたとは「あきらめること」と考えているからです。権力を持つている人との「たたかい」は、長いたたかいになることは、歴史が証明しています。8時間労働を勝ち得た労働者たちは、血を流し、命まで奪われながらたたかってきました。それでも、仲間の一つ一つの「良心」を集めながら、大きな権力という壁とたたかってきました。そして、そのほとんどが跳ね返されています。しかし、最後に8時間労働を勝ち得たのは、「あきらめない」という魂でした。

今回も、「期末・勤勉手当のカット終了」「現給保障の継続」「休憩時間の15分短縮可能による退勤時刻の改善可」など、今年度に比べると改善されています。(左表) 今後ともあきらめないたたかひが重要です。

1. 独自削減緩和によるモデルケース

年齢	13年度削減額	緩和後の削減額	今回取り戻した額(14年度より)
45才	37万円	13万円	24万円取り戻す!
35才	25万円	11万円	14万円取り戻す!
25才	11万円	5万円	6万円取り戻す!

2. 現給保障継続により、52才以上は削減免れる!

「たすき」をつなぐ

「学校」という職場が、「ブラック企業」にならぬよう、先達から渡された「たすき」を次の世代につなげたいものです。ともにがんばりましょう!

フォーラムのつながりを大切にしていきたい 上ノ国教育子育てフォーラム

檜山教育・子育てフォーラムの地域に脈々と根づいてきた子育ての輪を受け継ぎ、上ノ国では「健やかな子どもを育てるために みんなで手をつなごう」を合言葉で、一月八日(金)、上ノ国小学校で「二〇一三上ノ国・教育子育てフォーラム」が開催されました。上ノ国支部の女性部が中心となり、「子どもを真ん中に、子育ての共同は、今こそ大切な時代。集まる人数は少なくても、昨年度のつながりを切らさないで続けること」という思いが確認さ



れ、保護者2名を代表に、それをサポートする形で教師1名が事務局となり、実行委員会が作られ、「大人のための読み聞

かせ会 くかんたん手作りおやつとともに」と銘打ち、開催できる運びとなりました。当日は、大人20名(うち「読み聞かせの会」4名) 子ども13名の計33名が集まりました。

最初に中川代表から「フォーラムのつながりを大切にしていきたい」と挨拶がありました。その後、前半は、金野学級で作った簡単カボチャのカップケーキ作りをしました。ワイワイガヤガヤと賑やかに混ぜたり、泡立てたりして、生地をカップに流し込み、オーブンで焼きました。焼き上がる間に読み聞かせをしました。

上ノ国の読み聞かせグループ「もっこさん」が読み始めるとお母さん達も絵本に集中し、きらきらと子どものように瞳を輝かせました。読み手の声や表情に引き寄せられ、大人だけの読み聞かせの時間をしっとりとしたやさしい時間として過ごすことができました。

子どもたちは、別室で子ども用「もっこさん」が用意した絵本を読み聞かせてもらい、その世界に浸りま

した。読み聞かせが終わった後、焼き上がったカボチャカップケーキを食べ、楽しい時間を過ごすことができました。(担当 菊地涼子記)



「やまの会」の皆さんと共に考える

檜山の教育

檜山民教「冬の研究集会」のご案内

◆日時 平成26年2月8日(土) 午後12時30分~受け付け 午後13時00分~午後16時30分

12:30	13:00	13:30	14:00	16:00	16:30
受付	開会集會	「やまの会」の取り組みについて	パネルディスカッション「これからの檜山の教育」コーディネーター 福井雅英さん (北海道文教大学教授)	檜山民教集會	

◆場所 乙部町・元和交遊館(乙部・道の駅の向かい側です)

檜山管内北部の、せたな・今金両町で自然、有機農法に取り組む30~40代の農業者でつくる「やまの会」。「循環できることってなんだろう?」「本当の豊かさとはなんだろう?」「生態系のバランス、食物連鎖の意義、命をいただくこと、その循環こそが食であり、そのシステムこそが農」「農は文化」...彼らが生産する米や野菜、豚肉、羊肉などは、その品質の良さから地元はもちろん、函館や札幌のレストランなどで注目されています。明るい未来がイメージできないと言われる檜山の基幹産業である一次産業。その厳しい世界の中で、本当に大切なものは何なのか?「ホンモノ」を追い求めている「やまの会」から大口義盛さん、村上健吾さんをお招きし、その取り組みを紹介していただきます。その後のパネルディスカッションでは、檜山ではおなじみの福井雅英さん(北海道文教大学教授)をコーディネーターとしてお招きし、昨今、檜山の教育現場で奮闘している若手教師の皆さんが直面している現状・課題を交流します。その後、「やまの会」の皆さんも交え、檜山の教育が大事にするべきもの、これからのあり方について議論を深めていきたいと思います。

◆参加費 一般参加→500円・檜山民教会員→300円

◆参加申し込み方法...参加申し込みはメールをお願いします。

※当日参加ももちろん大歓迎ですが、資料の準備等のため事前に参加申し込みをお願いいたします。①氏名②住所③電話番号④職業(学校名・担当学年・担当教科)を下記へ。

檜山民主教育研究会事務局 〒043-0017 檜山郡江差町字水堀町147番地 江差北中学校 内糸俊男 e-mail(PC) KHF04543@nifty.com e-mail(携帯) uchitotosho@docomo.ne.jp

部活動・少年団を語ろう!

主催 檜山教職員組合 教文部

日時:2014年2月15日(土) 午後1時30分~午後4時

13:00	13:30	15:40	16:00
受付	部活動・少年団を語ろう	感想交流	

場所:乙部町・元和交遊館(乙部町・道の駅の向かい側です)

様々な声を聞くと、今、部活動や少年団を熱心に指導し、やりがいを感じられている教職員があられます。反面、そのことが負担で、肉体的にも精神的にも困っている教職員もあられます。また、小学校の少年団と部活動の関係で苦勞されている学校もあります。

それ以外にも、全員部活制と希望制、専門と専門外、練習試合や大会などの勤務の取扱いなど様々な課題をはらんでいます。

今回、部活動や少年団で実践していること、そして、困っていること、悩んでいることを語り合い、更なる発展や様々な課題を少しでも克服できる知恵見つかればと思っています。

事務的な話や運営などの会議では語りにくい、「思い」などを大切にしていきたいと思います。

若い教職員の方は、「今、がんばっていることは、本当にそれでいいのか聞いて欲しい」「部活動をどうすればいいのか困っている」などを、経験豊かな教職員は、「こんなふうに考えてきた」「こんなことをやってきた」などを伝えていただきながら、自由論議の場になれば良いと思っています。

■参加について

・参加費は無料です。参加申し込みは下記に連絡する、もしくは職場や最寄りの組合員まで

043-0056 檜山郡江差町陣屋町86-1 電話:0139-52-0858 FAX :0139-52-1490 携帯:090-8904-4710 E-mail:hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp 檜山教職員組合 中山まで

地域を育てる学力とは?について考えます。 福井雅英教授がコーディネートしてくれそうです!